

すいご Cafe News Flash



【11月11日 井原木奈美さん】

発達障害とわかった時は、それで生きづらかったんだって腑に落ちた感じはあった。若い頃は発達障害って言葉自体がなかったし、ずっと悩んでいた。みんなが普通にやっていることで

も、私はたくさん注意を払わないとできないし、疲れやすかったのも発達障害のせいなのかなと今では思っている。でも、どこまでが発達障害か、性格かわからない。もし発達障害が治ったら普通の女性みたいになるのか。女の子らしいことに興味ないのは自分の個性なんじゃないかな。全ての人が同じ方向に向かわなきゃいけないわけじゃないでしょ？と私は言いたい。



【11月18日 石井樹章さん】

昭和43年生まれ。中野区出身。小学生時代に2人の障害のある友達と一緒に遊んだりした思い出が印象深い。区別を知らない時代で、自分で「障害は～」、

「普通の人は～」って線を引かないうちに一緒に過ごしていた。それからいろんな地域活動に参加するようになった今、うまく説明できないけど、当時のその空気感がいろんな地域活動の中では手がかりになっていて、フラットに接することができるのはその頃の経験があるからだと思う。若い人と喋っていると、障害のある人達はその人達ってということで理解した上で私達と一緒にやりましょうと話す人が多く、一緒にできないなら困っちゃう、みたいなイメージを取り払ってもらいたいと思う。



【11月25日 西嶋美子さん】

平成19～23年度の5年間で実施された「大阪府工賃倍増五カ年計画」で、初めて障害者や障害者施設に関わることに。社会の中で働いて生きがいを持って帰ってもらいたいというのが私達の目的

で、「福祉的から社会的事業所へ」が合言葉だった。施設を巡り、単純な作業でも分解して改めて人の配置をしたり、段ボールごとにテープの色を分けて誰でもすぐ目で見てわかるようにするなどの工夫を進めた。五カ年計画が終わり、これからの人生では、触法障害者(障害や認知症がありながら、福祉的支援がない為に再犯を繰り返す障害者)をサポートしたく、まず強制施設から出てきた人を福祉につなごうというプロジェクトを立ち上げた。手帳や生活保護を取れるようにして、自立支援につなげていきたい。



【12月2日 大家けい子さん】

10年程前から介護者サロンを運営している。介護をしている家族同士が日常的な介護の不安や悩みを話し合う場。介護の悩みは介護している本人でないと、

例え親族でもわかってもらえないという意見が多く、どこに相談したらいいかもわからず、悩んでいる方も多し中、同じ経験をしている人同士で話し合うことで、今まで言えないとも言えるようになって、わかりあえてよかったというふうによく言われる。私達もみんなと一緒に考えられたらいいなと。今はグループホームや特養、介護付き老人ホームなど、どこに入るにしてもお金が多分にかかるため、見れるようなら家で見ようという人が増えているし、高齢者は高齢者同士で生きていってね、という国の姿勢に疑問を感じる。



【12月9日 藤ヶ谷理江さん】

娘の郁美はダウン症。中学まで通常学級に行って、高校は行かずにパタパタに通って現在に至る。食べるのが遅かったりトイレに失敗するのがどうかと思ってい

たけど、送り迎えは9年間したがそれ以外は授業にも給食にもつかなかった。林間学校は友達におんぶしてもらったり、普段の生活は郁ちゃんが～だったんだよとお友達が教えてくれた。郁美も楽しく通うことができたと思う。以前から同じクラスだったお友達は、6年生の時に郁ちゃんダウン症なの?!と気づいたくらい、自然にクラスに溶け込めたのが嬉しかった。